

最近話をしていると「今年の冬は雪も少ないし暖かく暮らしやすいけれど何かおかしい此の先が心配だ」と言う言葉がよくでてきます。

新聞TVでは、インドネシアのジャカルタでは1月末からの断続的な豪雨で水位が7米も上がり、モスクワでは去年の12月の気温は平均よりも6.7度も高くニューヨークでも1月6日の気温は22度とハワイ並の気温になったと報じられており、又オーストラリア東南部では~~1,000~~¹⁰⁰年に1度といわれる大旱魃になっているとされています。日本に於いても、秋田市、新潟市、神戸市で1月の平均気温が最高記録を更新したといわれ名古屋市では1月24日にタンポポが咲き、神戸では1月31日梅の開花が確認されています。

これらの異常な気象は地球の温暖化が原因といわれてり、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第1作業部会が指摘する温暖化の影響の1番目に、日本は集中豪雨が増加するであろうと書かれています。

最近は北海道においても日高、十勝地方で豪雨があり又北

見地方においても強風大雨がありそれぞれ痛ましい事故、災害、が起きたことは記憶に新しく身近に異常気象が迫って来ているように感じているところで在ります。私は今天塩川の豊かな水を使って農業を営んで居りますが、昔は大雨が降ると川は大水となり橋は流され農地は水をかぶったり流されたりし、水の怖さ恐ろしさ見て育つて来ました。昭和45年天塩川上流にダムが造られました、此のダムと堤防の整備に依り天塩川本流での洪水はなくなり、今農家は安全、安心な作物を消費者に食べていただく為日々心を砕き、又土地改良に多額な費用と労力を使い皆様に喜んでもらえる農産物を作るべく汗を流しているところで在ります。土地改良は、親子何代にもわたり長い年月を経て作物を育む土地づくりを続けていくものであります。農家の汗と苦勞のかたまりの農地が自然災害によって失うようなことは耐えられませんし、起こしてはならないと思えます。自然には貯水能力が備っていると言われてはいますが、異常気象による豪雨旱魃には其の能力にも限界があるとおもわれます。 「I P C C」第一作業部会の指摘にある

ように日本のこの地方にも、近い将来集中豪雨等大きな自然災害が起きる事も充分考えられます。天塩川の流域に暮らす人々が安心して生活でき農業生産ができる、自然に優しく水を制御しそしてコントロールできる施設と河川の整備が早急に必要であると思っております。